

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	18人

1. 使用状況

寄贈物品名	パートナービジョン（立体コピー機）
使用学年及び人数	幼小中高 18人
使用頻度	毎日
使用状況	<p>教科学習の授業で毎日使用している。弱視の児童生徒にとって、教科書の地図やグラフなどは、線が細くて見えなかったり、模様や色の変化に気づけなかったりと、内容を理解することは大変難しい。また、全盲の児童生徒については、何が書かれていることさえも分からない。</p> <p>パートナービジョンを活用し、凹凸のある図を提示すると、線をたどり、形を確認したり、グラフの長さの違いを感じ、比較したりすることができる。内容を理解するには、大変有効である。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>線の向きや長さ、地図などの状況を正しく確認ができ、児童生徒の理解が深まった。短い時間で内容を認識できれば、想像性も広がり、これまでの学習と結び付け、思考を広げていくことができる。</p> <p>また、友達が書いた絵や図についても、簡単に認識でき、コミュニケーションの幅も広がった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>活用頻度は高く、日々の学習の中で活用していく。図案をどの程度簡素化して提示するかについては、教員の研修が必要となる。</p>
その他希望や所感など	<p>大変操作がしやすく、短い時間で立体コピーができあがるので、教科指導だけでなく、道徳や特別活動など様々な学習場面で活用していく。</p>

2. 活用の様子

「立体コピー図」を使った学習 <見えにくさを伴う児童>

< 社会：地方区分 小学部4年 >

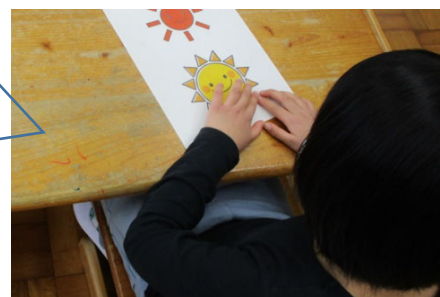
日本地図の中から「東北」や「四国」などの地方区分について学んだ。各県の形をそのままにコピーした図(①)では、地形の凸凹を感じることができ、簡略化した図(②)では、点字と合わせ、日本のどの位置に〇〇地方があるなどが分かり、理解を深めることができた。



日本地図を触る児童

< 図画工作：学級目標づくり 小学部3年 >

クラスで学級目標の掲示物を作った。自分が太陽のどの部分を担当するかが分かるように、太陽自体の形や光の出具合などを立体コピーで作成し、触って確認した。



太陽の図を触る児童



< 総合的な学習の時間：新しい命 小学部3年 >

お腹の中の赤ちゃんの様子を立体コピーで表示した。指先で触る中で、「頭が下にある」、「お母さんと赤ちゃんがへその緒でつながっている」などの発言があるなど、理解を深めることができた。



おなかの中の胎児の様子を確認する児童